

〔華實年浪草〕正月上船乗初中略攝州大坂ノ船乗初ニハ、舟ニ松竹注連テノ漕戻ルヲ立、船靈神へ鏡餅神家酒肴ヲ調ヘ、合家嘉儀ヲ催シ、年中廻船ノ海上風波ノ難ナキコトヲ祈リ、自ラモ祝フト也

〔諸國會〕年中行事大成正月二日、船乗始略中大坂邊にては、船に松竹注連を飾り、船靈を祭り、鏡餅神酒、燈明種々の供物を獻じ、水主揖取等華やかに粧ひ、十段ばかり乗出し漕戻し、其後酒宴をなす、すべて欸乃歌を謠ひ、甚壯觀なり、中略今日船中に賽ニツを双べ飾り、ニツ共一を上になし、一天祝ふ故實なりと云、

〔改正月令博物筌〕正月、舟乗初中略舟乗初に賽をニツかざりおく故實あり、その並べるや、上へ一方は、六地真直にして、水上おだやかならんと也、二と二とを合す、中荷多からんと也、向ふへ三をならぶ、さいさきよし、前へ四をならぶ、仕合よしと祝ふ事とかや、

〔諸國會〕年中行事大成正月二日、角倉船乗始略中其式、高瀬川筋角倉家の前なる入江に、舟二艘を飾る、一艘は當主舟、一艘は舟歌舟なり、寅の刻、當主及び老臣監舟の士乗船ありて、入江を七度計漕廻る、此時船中に於て祝儀の酒宴あり、又謠及び舟歌を唱ふ、爾して後舟の表に備ふる所の饅頭を舟中へまき、又路上へ撒く、是を得て懷中すれば難船の患なしと、よりに海上往返の商家競ふてこれを求むる者群をなす、

○按ズルニ、慶長十三年、角倉光好、加茂川ヲ引キテ高瀬川ヲ開ク、後幕府ノ命ニヨリ、世々高瀬川ノ舟ヲ司ル、

〔水戸歳時記〕正月二日、略中舟ノリ初、湊ニテ舟大將御舟ニノリ出ル、舟中ニテ水手舟歌アリ、

〔御家傳記〕慶長六年、一豊公山内一豊始土佐ニ封セラレテ舊臘大坂御出船淡州由良にて御越年、正月二日、甲浦に御着船、略中同五日、彼地御發駕、奈半利に御一宿、略中八日、淡道通り浦戸へ御入城、略中或説に、

阿州桂泊に御越年、正月八日、浦戸に御着、此日を吉例として、毎年船の乗初と被成也、
〔御船御乗初記〕附錄朝比奈右京殿日記に云、延寶八年正月八日、御吉例御船御乗初、略中